



# Yonago East Weekly

「一人ひとりが輝きを！ ロータリーに大きな輝きを！」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/高橋孝之 ●幹事/杉本真吾 ●会報/細田耕治

会員数 102名  
 (正会員 101名 名誉会員 1名)

### 今週のお祝い

夫人誕生祝: 9日 戸田 忍君 12日 大場英之君  
 21日 多林美智子君(主人誕生祝) 25日 高橋孝  
 之会長 26日 小土井秀明君 27日 長谷川進君  
 30日 松浦啓介君

### 会長挨拶

皆さんこんにちは。先週、新旧引継クラブ協議会を実施いたしました。いよいよ残り40日あまりになりました。そして、先日、日本海新聞に「会員が100名を越した」という記事が載っていました。あとは、来週、芸場(イエジャン)RCに行く予定であり、クラブ交流を図って参ります。共同でバングラデシュに学校を寄贈しようという動きがあって、本来は、今年2月にバングラデシュを訪問して事業計画を発表する予定でしたが、そこまでには至りませんでした。この度の訪問でもう少し具体的になるかもしれませんが、この件については、野坂次期会長に託すことになるかと思えます。

もう一つは、本日、日本海新聞に鳥取大学名誉教授で11年前に亡くなられた遠山正瑛さんの記事が載っていました。今から30年ほど前に「内モンゴルを緑でいっぱいにする」という構想を立てられました。この話は、米子東RCで卓話をされたことがあります。この構想に対して、ほとんどの方が信用しませんでした。それでは、子供からということで、日本全国の子供を組織化して「緑の応援隊」を作られて、活動をされました。私の友人

が、協力したいと、当時のお金で100万円を寄付されました。その式典を見ていた岐阜で事業をされていた方がすごく感動され、岐阜から内モンゴルへ行くことになりました。そして、今から10年ほど前に学習院大学の学生たちと一緒に内モンゴルで活動していたところ、皇太子さまもその話を聞きたいということになり、運動が広がることになりました。鳥取県から運動が始まったということで、実は、本日、米子市に報告並びに「緑化問題について意見交換をしよう」ということで来ておられます。一緒になって行動することができれば素晴らしいことだと思います。

### 幹事報告

1. 6/14中海一斉清掃参加のお願い
2. 8/29米子南RC創立30周年記念ゴルフ大会  
(次年度会長・幹事宛)
3. 5/24~26芸場RC訪問交流会
4. 例会変更のお知らせ  
米子南 6/1(月) 休会(定款第6条)  
ビジター受付なし  
鳥取中央 6/1(月) 夜間例会 " あり 他

### 次回プログラム

5/27

「イノベーションの真実」

(財)Rubyアソシエーション理事長

まつもと ゆきひろ 氏



## Light up Rotary

## ロータリーに輝きを

## <プログラム>

### 「コミュニティ・メディアの現状と展望」



#### 中海テレビ放送

編成制作グループ制作部 林葉子氏

中海テレビ放送の、林葉子と申します。本日は、「コミュニティ・メディアの現状と展望」というテーマでお話をさせていただきます。みなさんのテーブルの上に「コミュニティ・メディアに明日はあるか」というタイトルの本が、置いてあります。これは、中海テレビ放送を事例として、今後のメディアを考察しようとしたものです。私は、神戸大学大学院に通い、コミュニティ・メディアに関する勉強をしてきました。そこで得たことを、ご紹介させていただきます。

まず、プロフィールの方ですが、京都府八幡市生まれでして、15歳の時にバングラデシュに行き、国際関係に興味をもちました。一方、マスコミにも興味があったので、NHKを経て、関西のプロダクションに所属し、アナウンサーとしての第一歩を踏み出しました。それから山陰中央テレビに出向し、山陰との縁ができ、大学院卒業後、中海テレビ放送へ入社することになりました。

「コミュニティ・メディアとは何か？」ということですが、これは、県単位より狭い範囲(市町村・区等)をエリアとする放送局であり、わかりやすく言えば、コミュニティFMとかケーブルテレビが該当します。普及の背景は、ケーブルテレビが難視聴域の解消であり、コミュニティFMは、災害時の情報提供でした。大学院ではコミュニティFM(CFM)の方を主に研究してきましたので、本日は、CFMを中心に話をさせていただきます。CFMは、1991年に国が「コミュニティ放送」の制度を発表し、1992年に第一号が函館市にスタートしました。その後、全国で開局ラッシュが始まり、CFMの認知度が一気に高まったのは、阪神淡路大震災です。CFMの特徴は、コミュニティ力強化ができるということと、設備費用とかメンテナンス料が安いということです。東日本大震災の時も、積極的に支援を行いました。私も実際に、南相馬市にある臨時災害FM等へ行ってきました。

実は、海外にもコミュニティメディア(CM)があり、むしろ、海外の方が活発に行われています。CMの発祥はポリビアだそうです。世界コミュニティラジオ連盟という組織が有り、世界110カ国

に及んでいます。私はそのフォーラムに参加させていただきました。バングラデシュとかネパール、東ティモール、インドネシア、タイ等色々な国からのコミュニティ・メディア関係者が集まり、災害時の放送のあり方等について話し合いました。その時、タイ・バンコクのCFMの見学にも行きました。「うちの旦那がいないんだけど？」というような非常にコミュニティに特化した内容の放送が、流れていました。メッセージもたくさん入ってきて、海外の方が先進的なのかな、と感じました。インドネシアのCFMも頑張っています。住民一人ひとりがジャーナリストになって火山の様子を知らせるなど、上手く情報を集めていました。先般、ネパールで大きな地震がありました。ネパールの災害FMが素早く立ち上がりました。これは、日本でも学ぶ点があるなと感じました。

世界のCMは、その他にもコンゴの「対立する民族同士の融和」とか、インドの「女性のエンパワメント」等があります。世界のCMは、生活がかかっているので「本気度が違うな」と感じました。日本のCMとの共通点としては、コンテンツに苦慮している点でした。日本のCMに應用しようと思ったのですが、イントラが違うので比べられない、という結論になり、身近にあった先進事例が、中海テレビだったわけです。時間的に、その内容を本日も伝えできませんが、詳しくは本に書いておきますので、読んでいただきたいと思います。CMの成功のポイントは、従来は、地域貢献ということが唱われていたのですが、自分が実現したいという思いと、地域を巻き込んでいくことで発展していくのではないかと考えます。最後にCMを今後どうしていくのかという点ですが、「みにくいあひるの子からの脱却」というか、マスメディアとの差別化を図り、ジャンルを築き上げることが大事ではないかと感じています。

#### 今後の主な行事予定

- |      |                                   |                   |
|------|-----------------------------------|-------------------|
| 6/3  | 新年度クラブ協議会                         | 18:30~(芙蓉西)       |
| 6/17 | 職場訪問                              |                   |
|      | 「山陰労災病院ミニ人間ドック」                   |                   |
| 6/20 | 庄司尚史ガバナーエレクト年度<br>「第1回地区役員予定者連絡会」 | 17:30~(境港マリーナホテル) |
| 6/24 | 夜間例会                              |                   |
| 7/8  | 杵村ガバナー補佐訪問クラブ<br>協議会              | 例会終了後(高砂)         |
| 7/22 | 佐藤ガバナー公式訪問                        | 18:30~            |